

## 今日の説教のポイント<マタイによる福音書 20 章 1~16 節>

驚きと感動を持って福音の本質を聞きとりたい大切な個所です。

### ①釜ヶ崎での体験から知ったこと

この話と全く同じ場面を神学生時代に経験しました。大阪の釜ヶ崎です。そこで知ったことは、早朝から雇われた人の平安、「これでもう今夜はアオカン（野宿）しなくていい」ということです。夕方の5時に雇われた人はそれまでずっとこの不安の中に置かれ続けるのです。

### ②「先の者が後になり、後の者が先になる」(19:30,20:16)に注目

今日の個所の前と終わりに記されたこの言葉が重要です。私だって、早朝に雇われたら、今度はその途端から、働いた時間でもらえる報酬のことを考え始めると思います。そして、「夕方5時から働いた人と同じ報酬はおかしいじゃないか」と不平を言ったことでしょう。こうなると、せっかく夜野宿することを考えなくていい平安の中に早くから置かれたのに、その幸せが不幸せに逆転してしまうのです、「先の者が後になり、後の者が先になる」、です。私たち人間はつくづく、与えられた幸いは忘れやすい存在だな、と思わされます。

### ③私たちの心の持ち様一つで変わる。しかしそれが主題ではない

ですから、同じ状況に置かれていても、幸せか不幸せかは私たちの心の持ち様一つで変わるのです。しかしだからと言ってこの話は、私たちがどんな状況に置かれていても、もっと気の毒な人がいることを覚えよと教える話でもありません。そうだとすると、貪欲な主人、経営者には都合のいい話ですね。この話は私たちの心の持ち様の話ではなく、気前の良すぎる神様、「私はこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ」(14)と言われる神様がおられ、その神様に生かされていることを覚えながら生きなさい、ということを教えている話なのです！

### ④この話から覚えるべき大事なことは二つ！

1) 私たちが神様からいただいている恵みを忘れやすいこと、2) そんな私たちがなになお見捨てず、働いた量によらずに同じ報酬を与えて下さる神様がおられるということ。この二つのことを自分の中心に置いて生きると生きられるし、この神様が喜んで下さる社会（共産主義でも資本主義でもない信仰的社会。教会から！）作りも託されているのです。